

相談室たより

2013年8月号

みさき病院
MSW 三宅

毎日暑い日が続きますね(˘_˘)
みなさん夏バテしていませんか？
先日、農家の方とお話した際に、暑さで作業は早朝から9時まで行い、
昼間は休憩シタ方からまた作業を再開していることを伺いました。
農家でのサマータイムのようです。
さて今回は、個別ケースでの地域ケア会議に参加した報告をさせていただきます。



Aさんの1人暮らしを支援する地域ケア会議

ある日、B地域包括支援センターから相談の連絡が入りました。

認知症を疑われるAさんを入院させてほしいという相談です。

すぐに入院対応が出来ない状況とAさんが入院を望んでいない状況であるため、早急な対応は困難でした。そこで、B地域包括支援センターへ物忘れ外来の受診はどうかと提案を行い、B地域包括支援センターより「今度地域ケア会議の開催を検討しているので参加してほしい」と依頼を受け参加することにしました。

会議には、Aさんの関係者が勢ぞろいでびっくり！！

行政（包括、福祉事務所、住宅建築課）、介護保険事業所（居宅、ヘルパー）、医療機関（中友診療所、私）のメンバーで会議が始まります。

Aさんの生活状況の報告の後、『Aさんの1人暮らしをどうすれば支えていけるのか』というテーマに協議しました。各々の機関が出来ることを提案することで、徐々に役割も明確化していきます。

当初は「もう無理ではないか」と思われたケースが、支援をやってみようという思いが変わったケースになりました。

～トピックス～

大牟田での歴史に幕が下りる・・・「生活と健康を守る会」大牟田支部

これまで生活保護申請時や保護課との交渉など、大変お世話になっていましたが8月17日をもって活動休止となりました。先日訪問したところ、後継者不足にてやむを得ず閉めますとのことでした。共に頑張っていた機関の幕が下りることはとても悲しく寂しくもあります。

はじめて地域ケア会議に参加し、Aさんを中心に各機関が連携し支援を検討することへの有用性を感じました。また、地域での医療の要は、やはり診療所の頑張りがあることを教えられた機会にもなりました。

（診療所でのソーシャルワークも必要だと思いました（*_^*））

行政の担当者も出来ることを考え支援していただく姿勢を見て、行政との壁も薄れていきます。地域ケア会議を重ねるごとに、参加者も増えてAさんの生活をみんなで考えることで、『支援者が一人で抱え込む抑止力』にもなります。

Aさんは、被害妄想、調理や買い物も困難で、近所でも道に迷う状況（警察に保護されることも）です。ですが、各機関の見守りや支援で最初の連絡が入った4月から、現在も1人暮らしを続けられています。

今後各地域で地域ケア会議が開催されていくと思われませんが、参加することでAさんのケースのように、地域で支援を考えていく視点の学びの場になると思います。

各機関や法人内の事業所の頑張りも目の当たりにすることができます。みなさんも機会があればぜひ参加してみてください。

裏面へ続く・・・

地域ケア会議とは！？ 私案ですが、まとめてみました。

地域ケア会議

国の推進 地域包括ケアシステム

日常生活の場で切れ目なく提供できる地域での体制づくり

↓実現するために

●地域ケア会議の位置付け

多職種協働のもとに、個別ケース検討を積み重ねて、

○地域で高齢者を支えるネットワーク強化

○社会基盤整備に繋げる一つの手法

●地域ケア会議の目的/機能

1.個別ケースの支援内容の検討

○「個別課題解決機能」

介護支援専門員の自立支援に資するケアマネジメントの実践力を高める

○「ネットワーク構築機能」

地域の関係機関等の相互の連携を高め地域包括支援ネットワークの構築

○「地域課題発見機能」

課題分析し共通した課題を浮き彫りにする

2.地域の実情に応じて必要と認められるもの

○「地域づくり・資源開発機能」

インフォーマルサービスや地域の見守りネットワークなど、地域に必要な資源を開発する

○「政策形成機能」

地域に必要な取り組みを明らかにし、政策を立案・提言していく

*①課題や目的に応じて、開催方法や実施回数、参加者等を検討する必要あり

*②実施主体は、1.については主に地域包括支援センター、2.については地域包括支援センター
または市町村主催

*③事例検討会とは異なるもの

●地域ケア会議の効果

利用者・地域住民：自立支援やQOLの向上、住み慣れた地域で安心して生活を送る

介護支援専門員・事業者：スキルアップ、役割分担により負担軽減、質の管理、重度化防止

保険者：適正な介護給付の維持、地域包括ケアシステムの構築

